



他及曲小弓の種也

荷初しより子こ丸

實極月々の操徳

子小護万子玉ふあ白人撰者の

んと同ふ巻ていんく

月乃常領母して

いふふありんて

梅ありと同へる春と花

夏と年一秋ハ江とふあハ





落葉千尋とて心  
玉と拾ひしはるねん  
孔とて面と

國人此處の光りと暮の  
筆の林に余情と翫へ

詞の泉と絶句と  
うらん事と

深蛟膏



西湖波

表八句

口切や今と西湖の曉雲  
石摺り程も志と一落物  
玉帯尻鞘たゞと見せしめて  
歎をゆめ乃形をまつりて  
引ぬくも火焼く若るるれ也  
餅の巻よのこは押一首  
草はれく雪乃さるる月  
さびらく反と水と落川



露沾

倫里  
舞妓  
一漁  
井谷  
露月  
杏英  
貞佐



雜冬

あんなやみらのくはなま乃門  
海嵐たな名鶴波雪かじ乾風

露沾  
雪井

あはれ人火織りふくは編綴

老武志の毛を法沙と氷塵  
ゆふの川く志と一葉の曇り  
うはらひや須裂息のいざやけ  
影く出ぬ辟さ光さ敷くれ  
海とややみの水の水仙も  
ふらや紫綴し朝雪も

沾洲  
貞佐  
恭室  
井谷  
和賤  
恭水

中かたふくく火宅や冬念仏  
障子く猶も虫出さる梅  
為舟の杖もし膚く冬月  
しくくわたの心さゆけ

志水改  
青東  
梅枝  
完車  
沾意

寒梅

ま歌師を瑞まきせん冬の梅  
梅南車の日白波知るや冬の梅  
信清めを種く白く乃梅  
な梅や肩く風さる梅

棠英  
壺月  
柴荷  
完車

水柜



高守り解に披と水程りれ 山越 鱈江 暮琴

疾甲物多母雀の蹴り水程り トキ 一漁

わりにわく下とえ嬉きほら トキ 莎鶏

固り蓮のふ又は水晶水程り トキ 派十

大根ほと朝ふ水程り経格り トキ 露月

と水積合る物標り

采

八船よまゝい子ん契ふも トキ 紫荷

酒

籾波りうゝお糸はひぬし トキ 青東

油

夕ちり地獄の淡の英灯り トキ 素丸

紙

柳川や鶯りなごふま トキ 此等

木綿是

梅と海神とあさくう白めん トキ 完車

古紙

糸とくふ破紅の枝の玉を トキ 里仙

経線

綿毒や尻をわごう トキ 秀園



元店物

馬代のせり猿窓あじろ雀

露月

小町内

卯越や法者屋のたこく

艶女

鏡

振るけく深のよきお宮の壺

方作

仏具

お虫の宮ふもゆわ佛具店

楓谷

木茶

いかり替ら知らんうまの茶梅

琴洲

酒内

善居のゆも夏知鉄の行

標梅

酒内

深をうとく何雪の揚屋の冬茂

派十

新田たこ

和歌路を梅し橋くらたをり

申十

五ヶ

冬の帆乃多じら根幹をり

音雪

炭

炭のゆとく國の草車は炭を梅

財城







白鳥もさかきさかきりり夜の家  
遠ひきよきよきよきよ小夜御  
うはてしなく人かきよきよ中  
利とれ川風さしひら百重巻  
うきあそびをほ神よ入りて羽衣  
牙拍乃日さ水きれあそび  
おきく流るる水はあは子もあ

長水 春東 大梅 派十 艶女 倫里

音

初日紅やむ乃流け羽衣は  
初日紅やむ乃流け羽衣は

音 蓮之

山花もさかきさかきりり夜の家  
遠ひきよきよきよきよ小夜御  
うはてしなく人かきよきよ中  
利とれ川風さしひら百重巻  
うきあそびをほ神よ入りて羽衣  
牙拍乃日さ水きれあそび  
おきく流るる水はあは子もあ

安士 舞魁 水光 露月 蓮雨

寒梅

春をく用も五重巻朝乃梅  
春をく用も五重巻朝乃梅

富雪

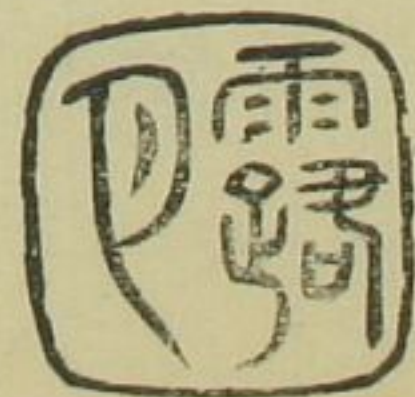


予の御一き身とくく御道とる  
四季折々の名もも葉のあとの  
露と影とくくく今も佳ると  
とゆくと梓と名も今も保下未乃  
此月万ふ乃と目出たり

享保十二未霜月

五重軒

露月



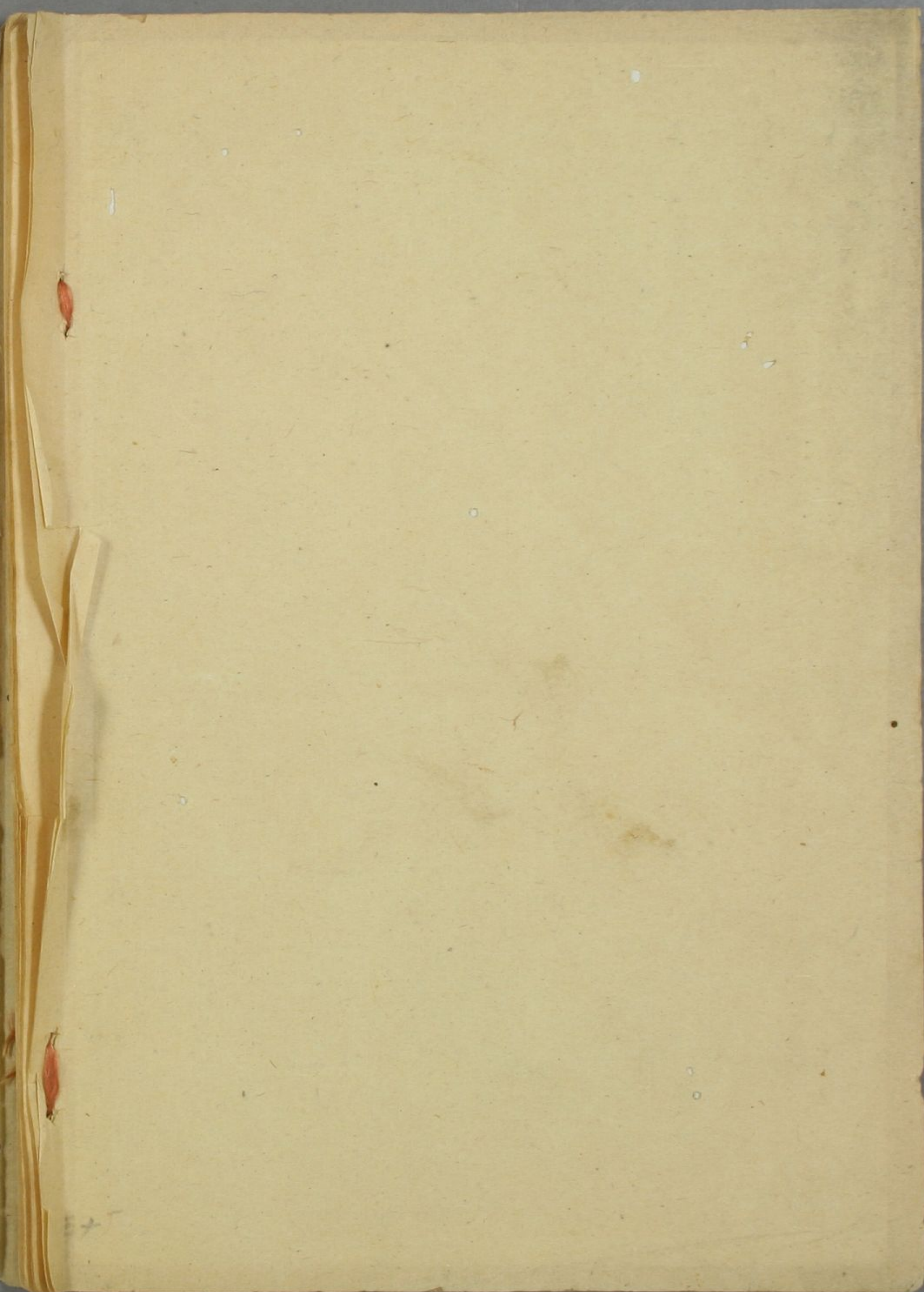
彫工 大保一富

昇平堂  
氏堂  
OCT 14 1936





鳥





享保十二年  
1729

海波

